

インフルエンザワクチン接種者の新型コロナワクチン接種意向

保険研究部 准主任研究員 村松 容子
yoko@nli-research.co.jp

むらまつ・ようこ
03年 ニッセイ基礎研究所
17年7月より現職。
主な著書に「みんなに知ってほしい 不妊治療と医療保障」(共著)

保険研究部 准主任研究員 岩崎 敬子
kiwasaki@nli-research.co.jp

いわさき・けいこ
10年 株式会社 三井住友銀行
15年 独立行政法人日本学術振興会 特別研究員
18年 ニッセイ基礎研究所 21年7月より現職

1——はじめに

インフルエンザのワクチンを接種している人は新型コロナウイルス感染症のワクチン(以下、「新型コロナワクチン」とする)も接種する傾向があることが指摘されている^{*1}。ワクチンによって感染症の予防を行おうとする意識は、人によって異なるからだと考えられる。

新型コロナワクチンについては、接種後の副反応やアナフィラキシーショック事例などの話題が報じられている。こういったネガティブな情報については、ワクチンによって感染症の予防を行おうとする意識がある人であっても、不安を感じる可能性は高い。

そこで本稿では、まず、インフルエンザのワクチン接種と、新型コロナワクチンの接種に関連があるかを確認する。次いで、普段からインフルエンザのワクチンを接種している人を、ワクチンによって感染症の予防を行う意識が相対的に高い人と考え、3月上旬に国内で初めて報じられたアナフィラキシー事例が、これらのワクチンによって感染症の予防を行う意識が高い人の接種意向に影響を与えるかを検討した。

2——調査概要

本分析には、ニッセイ基礎研究所が毎年行っている独自のWEBアンケート調査である「被用者の働き方と健康に関する調査」のデータを用いた。このアンケート調査の回答は、全国の18～64歳の被用者(公務員もしくは会社に雇用されている人)の男女を対象に、全国6地区、性別、年齢階層別(10歳ごと)の分布を、2015年の国勢調査の分布に合わせて収集した。

回収期間は、2021年2月27日～3月25日で、回答件数は5,808件である。

普段インフルエンザのワクチンを接種しているかどうかについては、2021年に行った調査の項目には含まれていないため、その調査項目が含まれている2020年に行った同調査のデータを用いた。2020年調査は、2021年調査と同じ条件で実施し、回収件数は6,485件だった。そのうち、2021年と2020年の両方の調査への回答した人の数は4,451名である。

3——新型コロナワクチンの接種意向とインフルエンザワクチンの接種者割合

1 | 新型コロナワクチンの接種意向

新型コロナワクチンの接種意向は、2021年調査の「ワクチンは今のところ打つつもりだ(すでに打った)」に「あてはまる」と回答したかどうかで計測した。その結果、回答者のうち27.5%が「あてはまる」と回答した[図表1]。

2 | インフルエンザワクチンの接種割合

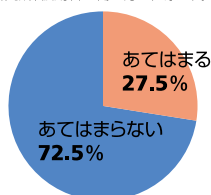
インフルエンザワクチンの接種割合は、2020年調査で、普段からインフルエンザの感染症対策として「予防接種をしている」に、「あてはまる」と回答したかどうかで計測した。その結果、2020年調査と2021年調査の両方を回答した4,451名

のうち24.3%が「あてはまる」と回答した[図表2]^{*2}。

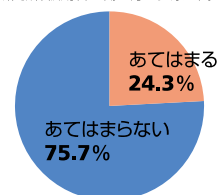
4——調査時点の「アナフィラキシーショック」への注目状況

本調査の調査期間は2021年2月27日～3月25日と、比較的長期にわたっていることが特徴である。調査期間中もワクチンに関する情報が日々報じられており、3月5日には、厚生労働省が、国内で初めてとなる新型コロナワクチンによるアナフィラキシーの事例を公表した^{*3}。さらに、6日には2例目^{*4}、7日には3例目の事例を公表した^{*5}。このことは人々の「アナフィラキシー」への注目を高めたと考えられる。それを示すのが図表3である。図表3は、Googleトレンドによる、「アナフィラキシー」の語の“人気度”の調査期間中の推移を示したものである。“人気度”は、期間中の最高値を100とした相対的な検索インタレスト(「Google検索で行われたすべての検索数に対してそのキーワードが占める割合」^{*6})で示される。つまり、この人気度は、「アナフィラキシー」の語への注目の高さを示していると考えられる。図表3の通り、3月5日に国内で初めてとなるアナフィラキシーの事例が公表されて以降、「アナフィラキシー」への注目が高まり、10日に最大とな

【図表1】新型コロナウイルスのワクチン接種意向 (N=5,808)
「ワクチンは今のところ打つつもりだ(すでに打った)」
出典:ニッセイ基礎研究所「被用者の働き方と健康に関する調査」(2021年)



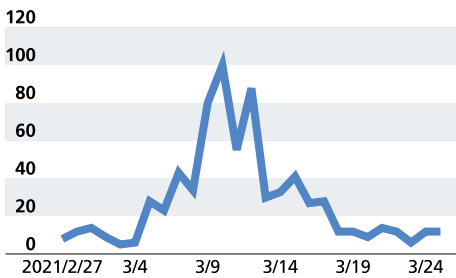
【図表2】インフルエンザのワクチンを接種した (N=4,451)
「インフルエンザの感染対策として予防接種をしている」
出典:ニッセイ基礎研究所「被用者の働き方と健康に関する調査」(2020年)



り、その数日後に減少していった傾向が見られる^{*7}。

【図表3】「アナフィラキシー」の人気度

出典：Google Trends (<https://trends.google.co.jp/trends/explore?q=アナフィラキシー&geo=JP>) 2021年7月29日検索



5—新型コロナワクチン接種意向とインフルエンザワクチン接種及びアナフィラキシーショックへの注目

では新型コロナワクチンの接種意向とインフルエンザワクチンの接種傾向及びアナフィラキシーショックへの注目の間にはどのような関係が見られるのか。それを確認するために、被説明変数を新型コロナワクチンの接種意向の有無(接種意向がある場合に1を取るダミー変数)、説明変数をインフルエンザワクチン接種有無(普段から接種している場合に1を取るダミー変数)及び、回答日当日のアナフィラキシーの注目度(Googleトレンドの人気度の数値)とした線形確率モデルおよびプロビットモデルによる推計を行った。推定結果を図表4に示す^{*8}。

まず、すべての推定でインフルエンザの予防接種と新型コロナワクチン接種意向には正に統計的に有意な関係があることが確認された(図表4(1)～(2))。つまり、インフルエンザの予防接種を受けている人は、受けていない人と比べて新型コロナワクチンの接種意向が高い^{*9}。また、列3と列4にみられるように、アナフィラキシーへの注目が高まることは、新型コロナワクチンの接種意向と有意な関係は見られないものの、列5と列6のようにインフルエンザの予防接種とアナフィラキシーへの注目の交差項は負で統計的に有意であり、インフルエンザの予防接種を普段からおこなっている人は、アナフィラキシーへの注

目が高まると、新型コロナワクチン接種意向が低くなる傾向が見られた(図表4(3)～(6))。

6—おわりに

本稿では、ニッセイ基礎研究所独自のWEBアンケート調査のデータを用いて行った分析から、普段からインフルエンザの予防のためにワクチンを接種している人は、新型コロナワクチンの接種意向も高いことを確認した。これは、ワクチンで感染症を予防しようとする人と、必ずしもそうではない人がいることを示していると考えられる。インフルエンザのワクチン接種をしたことで、ワクチンの効果を実感した経験がある可能性もある。

さらに、インフルエンザワクチンを接種している人では、新型コロナワクチン接種後のアナフィラキシー発生に関する情報に対して、敏感に反応していた可能性があることを確認した。インフルエンザワクチンを接種している人は、相対的に新型コロナワクチンについても接種を検討していた人が多かったからこそ、接種後の副反応についても、より関心が高かったと考えられる。このことは、新型コロナワクチンの接種に関する情報について、接種後のアナフィラキシーを含めた副反応等ネガティブな情報もある中で、予防効果を認識しつつも、接種に踏み出せない人がいることを示唆していると考えられる。接種拡大を進めるにあたり、丁寧な情報開示の重要性を改めて確認した結果といえるだろう。

【図表4】新型コロナワクチン接種意向とインフルエンザ予防接種及びアナフィラキシーショックへの注目の関係
被説明変数は、「ワクチンは今のところ打つつもりだ(すでに打った)」に当てはまる場合1を取り、それ以外の場合に0を取るダミー変数。

()内には頑健な標準誤差を表示。* p<0.10、** p<0.05、*** p<0.01

出典：ニッセイ基礎研究所「被用者の働き方と健康に関する調査(2021年)(2020年)

モデル	(1) 線形	(2) Probit	(3) 線形	(4) Probit	(5) 線形	(6) Probit
インフルエンザの予防接種	0.198*** (0.0168)	0.567*** (0.0466)	0.198*** (0.0168)	0.567*** (0.0466)	0.240*** (0.0264)	0.691*** (0.0783)
アナフィラキシーショックへの注目			-0.000294 (0.000894)	-0.000559 (0.00291)	0.00141 (0.00114)	0.00465 (0.00343)
インフルエンザの予防接種× アナフィラキシーショックへの注目					-0.00433** (0.00208)	-0.0130** (0.00661)
N	5808	5808	5808	5808	5808	5808
自由度調整済決定係数(Probitは疑似)	0.073	0.072	0.073	0.072	0.073	0.073

[*1] 和田耕治「ワクチン接種の推進に向け現状を踏まえた戦略の提案」(2021年7月21日)日本医事新報社 医療界を読み解く【識者の眼】

[*2] 2020年調査のみ回答している人も含めた回答者全体(N=6,485名)では24.1%であり、2021年調査も回答した4,451名の接種割合と大きな差はない。

[*3] 朝日新聞デジタル(2021年3月5日)「アナフィラキシーを国内で初確認 ワクチン接種後にせき」(<https://www.asahi.com/articles/ASP357G4WP35ULBJ019.html>)、2021年7月30日アクセス。

[*4] 読売新聞デジタル(2021年3月6日)「国内2例目、ワクチン接種の20代女性にアナフィラキシー」(<https://www.yomiuri.co.jp/medical/20210306-OYT1T50286/>)、2021年7月30日アクセス。

[*5] 日本経済新聞(2021年3月7日)「アナフィラキシー国内3例目 新型コロナワクチン」(<https://www.nikkei.com/article/DGXZQDQ0738G0X00C21A3000000/>)、2021年7月30日アクセス。

[*6] Google 広告ヘルプ「変化の激しい環境においてマーケティングに役立つ Google トレンド」(<https://support.google.com/google-ads/answer/9817630?hl=ja>) (2021年8月3日アクセス)

[*7] Google Trends (<https://trends.google.co.jp/trends/explore?q=アナフィラキシー&geo=JP>) 2021年7月29日検索。

[*8] すべての推定にはコントロール変数として、性、年齢、回答日までの7日間の居住都道府県の1日当たりコロナ感染者数の移動平均/居住地(都道府県)、仕事の内容(管理職/事務職/事務系専門職/技術系専門職/医療福祉、教育関係の専門職/営業職/販売職/生産、技能職/接客サービス職/運輸、通信職/その他)、新型コロナ感染経路(自分もしくは同居家族/同僚/身近な友人・知人/利他性、持病の有無(肥満である/血圧を下げる薬を服用している/インスリン注射、または血糖を下げる薬を服用している/コレステロールや中性脂肪を下げる薬を服用している/脳卒中(脳出血、脳梗塞等)にかかっているといわれたり、治療を受けたことがある/心臓病(狭心症、心筋梗塞等)にかかっているといわれたり、治療を受けたことがある/慢性の腎不全にかかっていると言われたり、治療(人工透析)を受けたことがある/現在タバコを習慣的に吸っている)、同居家族の有無が含まれている。その他、すべての推定で、2021年は回答したけれど2020年は回答していない人のダミーが含まれている他、3列目から6列目には、2020年は回答したけれど2020年は回答していない人のダミーとアナフィラキシーへの注目の交差項が含まれている。そのため、インフルエンザの予防接種の変数について、2020年の情報が無い場合は0と置き換えて推定している。

[*9] 新型コロナワクチンの接種意向がある人の割合は、インフルエンザワクチンを接種している人で45.4%、インフルエンザワクチン非接種の人では23.2%。